

佳作

## 自分自身と向き合うために

愛知県岡崎市立梅園小学校五年 新井 築

ぼくは、みんなにひみつにしてきたことがある。「僕と遊んでくれなくなるんじゃないか」「仲間外れにされるんじゃないか」そう思っていたからだ。でも、ぼくはこの先もずっと仲良くしてくれている友達にひみつにしておくことはやめることにした。本当は少しこわいけど、本当のぼくの事を知ってもらおうと思う。

ぼくのひみつ、それはきっとみんなは聞いたことがない言葉だと思う。ぼくは、まんせい血小板はしん病という病気です。とにかく長い病名です。自分でもうまく言えないような病名。このわけのわからないのが、ぼくのひみつにしてきた病気です。どんな病気か、かんたんに説明すると、みんなより血小板が少なくて、血が止まりにくい病気です。血小板とは、血液をかためるものです。

三才の時の事でした。お母さんがぼくの体に覚えがないあざがたくさんあることに気づきました。ぼくはおぼえてないけど、お母さんが教えてくれました。血液検査をしてすぐに病気が見つかり、あっという間に入院したそうです。お母さんは「なんで築がこんな病気に」、「原因は何」、そればかり考えていたと言っていました。

三回くらい入院したぼくにお母さんは、「健康な体に産んであげられなくてごめんね。代わってあげられなくてごめんね。」

とないていました。まだ薬も無くて、ちりょう方法もなく、国の難病指定になっている。でもお父さんとお母さんは、ぼくのことを優先してくれました。ぼくは、「なるべくみんなと同じように生活がしたい。特別なことはいやだ。」

と小学生になるときに伝えました。「築がやりたいことやらずに病気の事でしょんぼりしてるより、思うとおりにやって、困ったら病院の先生に助けてもらおう！何もしないよりはずっ」といいと思うから。」と、お父さんとお母さんが言ってくれました。

「病気がはずかしい」、「だれにも知られたくない」、そんなことばかり考えるのはやめにしようと思いません。ぼく以外にもいろいろな病気の人がいます。

ぼくは、いろんな人に伝えたい。自由に動き回れる体があることが、どんなにすごいことなのか。気づかないところでもがんばっている人がいること。今自分がわらっていられることの大切さ。

今ぼくは、空手をがんばっています。けがをするリスクはあるけれど、やりたいことができ、むちゅうになれることが見つけたり、自分に自信がついたことに、たくさんの人に支えられていることに、感謝しています。